

# 「大館ふるさとキャリア教育」が 奏でる「<sup>シンフォニー</sup>学びの交響学」

地域の  
特色ある  
活動

## 秋田県大館市教育委員会

### 1 未来創成戦略「ふるさとキャリア教育」

大館市は、秋田県北部に位置し人口約7万3千人、少子高齢化や人口減少などの社会的課題を抱えた地方小都市です。いわゆる「消滅可能性都市」の典型的な地方都市ですが、平成23年度から「ふるさとキャリア教育」を根幹に据え、「教育による未来創成都市」の構築に取り組んできました。その8年に及ぶ実践と成果についてお知らせします。

未来戦略として、次のように考えました。「当面、人口の社会減を抑制しつつ、四半世紀後には『少数精鋭の街 大館』を形成し、そこから大館の創成を期す。そのためには、『自立の気概と能力を備えた未来大館市民の育成』が不可欠であり、その一点に焦点を絞り、総力を挙げて『ふるさとキャリア教育』を展開する」という構想です。

その際、若者の流出を抑制する観点から、ふるさとの基盤上に自らの進路を描けるように「ふるさと教育」と「キャリア教育」を融合させたいです。また、「未来大館市民」育成教育なので、「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトをもって、就学前教育、市内の高等学校、大学までの「縦の一貫」、併せて、地域社会や地元企業などと「横の連携」を形成しました。

### 2 「ふるさとキャリア教育 百花繚乱作戦」

「ふるさとキャリア教育」推進の主体となっているのは、全小中学校が実践を重ねている「ふるさとキャリア教育 百花繚乱作戦」です。それぞれの学校では、地域の特色や素材を活かした活動を展開しています。

キャリア発達の観点からは、小学校段階では、「大館市民基礎力（主体的実践力、協働力等）」の育成、中学校段階では「大館市民実践力（社会貢献力、社会変革力等）」の育成をねらいとする教育課程となっています。中でも、釈迦内小学校の「サンフラワープロジェクト」は地域社会と一体となった起業家育成教育として全国に知られ、長木小学校の「エゾタンポポプロジェクト」も総合的なアクティブ・ラーニング（AL）として注目を集めています。中学校においては、「助けられる人から助ける人に」をテーマに地域防災活動を展開する北陽中学校などがあります。これらの実践により、子供たちのキャリア発達が計画的に促進され、学校は「地域社会の元気の源」たる役割を果たしています。



地域の人とひまわりの種植え ひまわり油の販売活動

### 3 全国初の「子どもハローワーク」

「子どもハローワーク」は、大館市教育委員会が平成24年度から立ち上げたもので、全国で初めての取組です。市の教育研究所が仲立ちし、市内外の企業や事業者から土日や長期休業中の「職業体験」や「ボランティア募集」を受け、その募集票を全小中学校に掲示し、希望する子供たちが申し込むというシステムです。5年間で、のべ1万人を超える子供たちがこれを活用しました。特に、秋に開催される「本場大館きりたんぼまつり」においては、毎年千人以上の小中高校生がボランティアスタッフとして主体的に参加し、食

の大イベントを支える体験を通して、キャリア発達だけでなく、ふるさと大館を自らが支えているという自覚と誇りも醸成されています。



舗装工事現場見学



小学生の病院見学



大工さん体験



農業体験（小中学生）

#### 4 授業イノベーション「教学から響学へ」

「未来大館市民」としての子供たちの能力を育成する試みは、授業にも及んでいます。

大館では、5年前から毎時間の授業に「アクション・シンキング・チームワーク」を鍛える活動を意図的に取り入れました。それが進化して、現在では「共感的・協働的学び合い（響学）」となり、全小中学校共通の取組になっています。いかに優れた「講義型授業」も「学び合い型」には及ばないということを確認できた3年前に「講義型授業禁止令」を発し、授業イノベーションを促しました。結果として、「主体的・対話的で深い学び」を具現する授業型となっており、さらには、それぞれの学校の特色や工夫が加わり「授業の百花繚乱」の様相を呈しています。中でも、城南小学校の「シンカ（進化・深化・真価）タイム」や花岡小学校の「チャレンジ授業・ベーシック授業」、下川沿中学校の「英語de数学」などは、先鋭的なAL型授業との評価をいただいています。同時に、数値的な学力（特に、活用的学力）も高い水準に至っています。

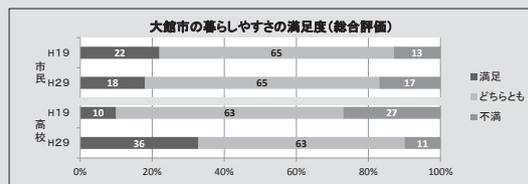


チャレンジ授業の様子

#### 5 「ふるさとキャリア教育」8年の成果

8年に及ぶ教育の本質的な成果は、子供たちの成長です。この教育を始めたころに小学生だった子供たちも、現在は高校生となり、

私たちの期待を突き抜けて「未来大館市民」として成長しています。それは凛として爽やかな振る舞いにとどまらず、大館を誇りとし自ら地域社会に貢献しようとする「未来大館市民」の姿です。このことは、様々なデータからも裏打ちされており、例えば、全国学力・学習状況調査における「自己肯定感」もハイレベルですが、「地域貢献意識」については小学校6年生で1.71倍、中学校3年生で1.64倍にも達しています。また、別の調査では、大館の暮らしに満足しているという高校生が、10年前の3倍以上に増加しています。街はほとんど変化していないのに、若者たちの意識が劇的に変容した結果です。さらには、ここ6年で、学校や団体がいただいた総理大臣表彰、文部科学大臣表彰、博報賞などの全国表彰が20回に及び、北海道から沖縄まで、教育による未来創成をめざす市町村との交流を積極的に受け容れています。



#### 6 「学びの交響学」へのご招待

本年、11月9・10日に、本市を会場に「秋田県学力向上フォーラム in 大館」を開催します。例年、全国から千人を超える参加者のある秋田県学力向上フォーラムですが、大館では新たな試みとして、市内の全小中学校26校の授業を公開します。もちろん、すべて「共感的・協働的学び合い（響学）」を核とした授業で、教科授業だけでなく、道徳や小学校外国語活動、支援学級、複式学級の授業なども準備しています。授業参観後には、各校でワークショップ型の授業研究会も行う予定です。詳細な情報は、大館市教育委員会のホームページに掲載していますので、全国からのご参加をお待ちしています。



教育長  
高橋善之